

包装商品の量目管理は包装品質の3大課題の一つである。

この課題の1番目は「守備的対応」の法規制の量目制度をいかに達成するか。

2番目は「攻撃的対応」の量目管理に関わるコストをいかに低減するかである。

3番目は量目制度の国際化をどう先取りしていくかである。

本講座では「法的対応」から「入れ目の改善方法」、更に計量・充填の抜本対策の『液だれ制御』、『粉舞制御』理論を含めています。

【講座内容】

I. 量目管理は、“CS”基本

- ・従来の品質管理と最近の消費者ニーズのギャップ
- ・JIS, ISO-9000の品質の定義

II. 日本の量目制度

1. 今日の日本の計量管理－計量法概説
2. 旧計量法は、厳しかった
 - ・日本の量目管理を成長させ優位な品質管理をもたらした
 - ・±の規制があった。標準偏差管理を常識化させた
3. 日本の計量管理の課題
 - ・どうして日本の計量管理／行政は国民に密着しないのか(?) (どうしてすかれないのか?)

III. 量目計量の世界標準化が始まった

1. 量目管理の法体系(世界－日本、各国)
 - ・OIML(世界法定計量機構)
2. “e”マーク [IQマーク]… 何?
3. [IQマーク]今日の日本の計量界にどんな影響を及ぼすのか
4. OIMLR87は、日本の量目管理能力を低下させる(!)
 - ◇現状の手抜きで間に合う
 - ◇立ち入り検査を受けなくとも日本のメーカーはとっくにやっている
法律違反ではなく、消費者が管理していた(駄目な物は売れない)
 - ◇オーバースペックの“改善”を日本の消費者は受け入れるか
 - ◇同一の公表仕様／値段なら売れた日本製の特長はどうなるか?
5. 中国で始まった“c”マーク【OIMLR87 準拠; 2001年施行】
 - ・中国を中心にしたB級品の“生産システム”の構築
6. 消費者保護の世界的始まりの兆し;(計量界にも平和がやってきたのか?)
7. 最近のアメリカマーケットの Prepackaging の計量の実際

IV. 計量・充填の理論

1. 量目ばらつきの発生メカニズムの検証
 - 1) “不具合”発生の関連要素の抽出
 - 2) 計量・充填工程の量目計量のばらつきの要因解析と改善策
 - 3) 計量器(機)の性能だけでは量目計量改善はできない
2. 量目バラツキ(不確かさ)理論の適用
3. 「平均値手法」を有効に導入するには
 - ・「標準偏差」解析で指摘される“不具合”の対処法

V. 量目バラツキの発生原因の抜本対策

1. 『粉舞制御』の展開
2. 『液だれ制御』の展開

【コンサルティング】

1. 諸種の包装問題に対する探索・調査
 2. 問題点に対する原因並びに解析
 3. 問題点解決の対策立案並びに改善策
 4. 実施計画の立案並びに実施スケジュールリング
 5. 実施結果のまとめおよび助言
 6. 効果の確認およびチェックシートの作成
 7. 標準化の実施
- その他いろいろな技術指導なども行なっております。

お問い合わせ先

日本包装コンサルタント協会(JPCA)

講座担当 (菱沼) FAX; 044-599-8085 E-mail; rxp10620@nifty.ne.jp